

ごあいさつ

矢板市には、八方ヶ原に代表される豊かな自然、恵まれた環境を生かした農林業、日本遺産にも認定された文化財を有する地域の歴史文化、そして充実した交通・社会インフラなど、先人たちの努力によって積み上げられてきた多くの資産があります。

しかし一方で、少子高齢化の進行、大学進学や就職を契機とした若い世代の転出超過、産業構造の変化に伴う雇用の減少など、本市は様々な課題を抱えています。とりわけ、近年は若い世代や女性の転出が著しく、令和6年4月には「消滅可能性自治体」に該当いたしました。その影響は出生数にも顕著に表れており、直近10年におけるこどもの出生数は、全国平均が約26%の減少に対し、本市では約55%も減少しているなど、持続可能な地域社会の形成が喫緊の課題となっています。

矢板市の今後10年間のまちづくりの指針となる本戦略の策定にあたっては、各行政区との「市長とよもやまミーティング」やワークショップなどの様々な機会を捉え、若者や子育て世代、これまで矢板市を支えてこられたご高齢の方など、幅広い方々から多くのご意見をお聞かせいただいているところです。

その中では、「長年代わり映えしない矢板市に変化をもたらして欲しい」、「近隣が発展する中で取り残されてしまって悲しい」といったまちの成長や変化を望む多くの声をいただいております。さらに、総合戦略の策定に向けて実施したアンケートでは、まちの住みよさに関する設問において「まちに魅力・活気がない」という回答が7割近くに上り、「就職先や仕事の選択肢がない」も4割を超えるなど、活力や魅力ある矢板市への転換は、市民の切実な願いであると受け止めております。

これらの市民の願いを真正面から受け止めて、今後取り組んでいく方向性を形にしたものがこの「矢板市総合戦略」です。この総合戦略の推進においては、まずは市民生活を支える市民福祉・子育て支援などの足元の取組を進め、長期では企業誘致や市内経済の活性化等により雇用を創出するとともに新たな財源を確保しながら、新たなまちづくりを進めます。

市民の皆様の声を丁寧に伺いながら、多くの方々と共に練り上げたこの戦略を推進することで、市の持つ資産・基盤を最大限に生かし、次世代へつなげる矢板市の発展の礎を築いてまいります。

結びに、本戦略の策定に際してご協力いただきました、公募委員や市内団体の代表者による矢板市総合戦略検討委員会の皆様をはじめ、外部有識者の皆様、ご意見・アイデアをいただいた市民の皆様、ならびに策定に携わっていただいたすべての皆様に、心より御礼申し上げますとともに、今後とも引き続き市政発展にご協力くださいますようお願い申し上げます。



令和8年3月 矢板市長 森島 武芳

1 本戦略の背景

(1) 本戦略策定の背景・経緯

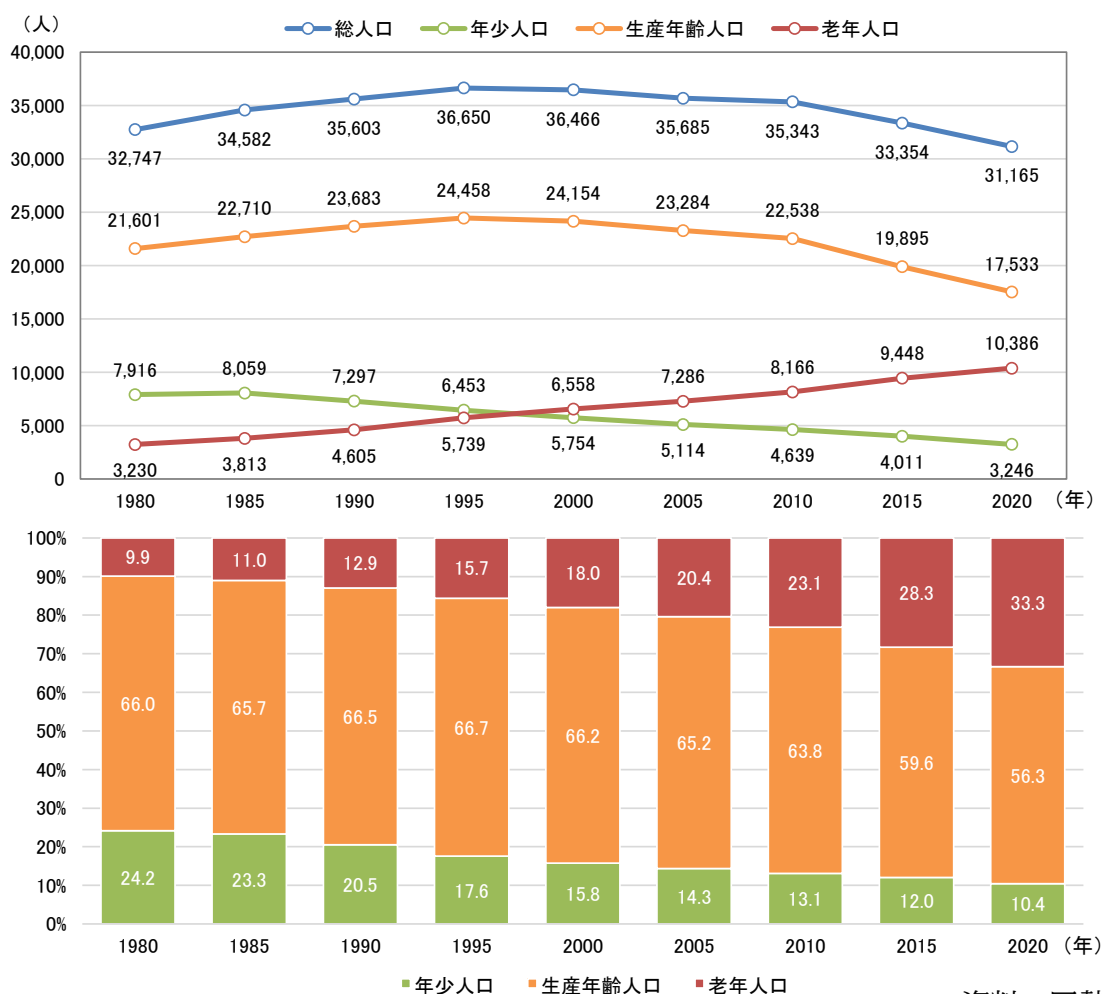
本戦略は、令和7年度（2025年度）で「やいた創生未来プラン」の計画期間が終了することに伴い、総合計画の役割も担う戦略として重点施策を定め、その実現に特化することで矢板市が抱える課題に着実に取り組むことを目的とします。

本戦略では、従来の総合計画の枠組みにとらわれず、今後5年間から10年間にわたり重点的に取り組むべき施策を明確に位置付けることで、より柔軟かつ実効性の高い行政運営を推進していきます。

(2) 人口の推移

国勢調査による人口の推移を見ると、矢板市の総人口は平成7年（1995年）まで増加していましたが、その後は減少傾向に転じています。

年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少している一方で、老年人口（65歳以上）は昭和55年（1980年）以降継続して増加しています。

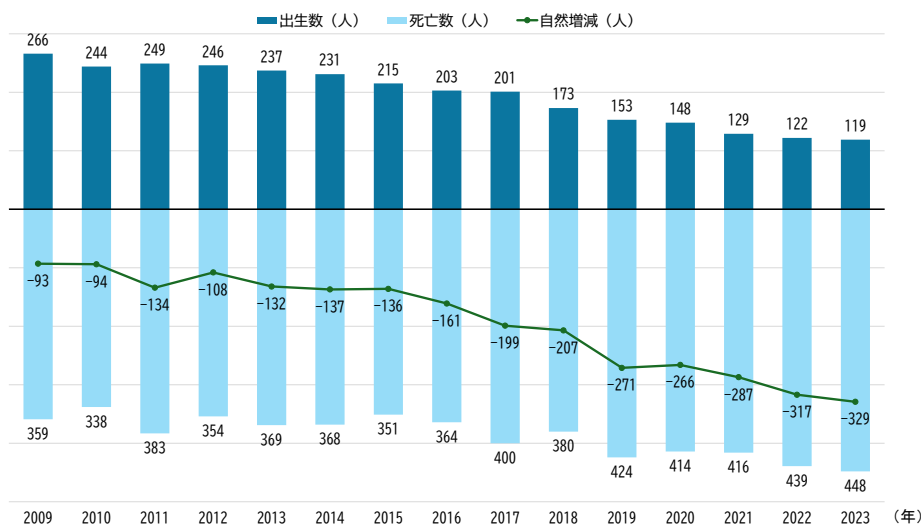


資料：国勢調査

(3) 人口動態

① 自然動態

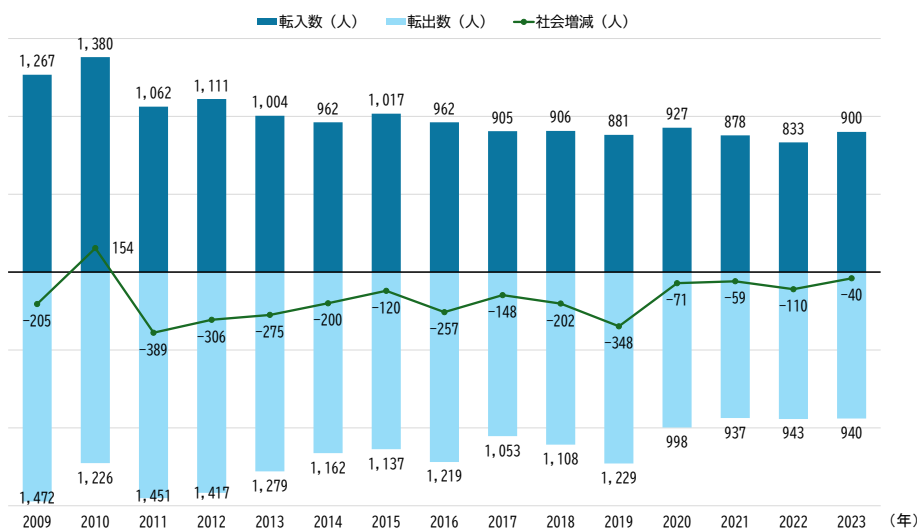
出生数は減少傾向が続いており、平成 29 年（2017 年）までは 200 人台で推移していましたが、平成 30 年（2018 年）に初めて 200 人を下回りました。死亡数は平成 30 年（2018 年）まではほぼ 300 人台で推移していましたが、令和元年（2019 年）に 400 人を超えました。出生・死亡に伴う自然動態は、死亡数が出生数を上回る「自然減」が続いています。



資料：矢板市統計書

② 社会動態

転入数は平成 23 年（2011 年）から 1,000 人前後で推移しています。一方、転出数は平成 23 年（2011 年）から減少傾向であり、令和 2 年（2020 年）以降は 900 人台で推移しています。転入・転出に伴う社会動態は、平成 23 年（2011 年）以降、転入数が転出数を下回る「社会減」となっています。

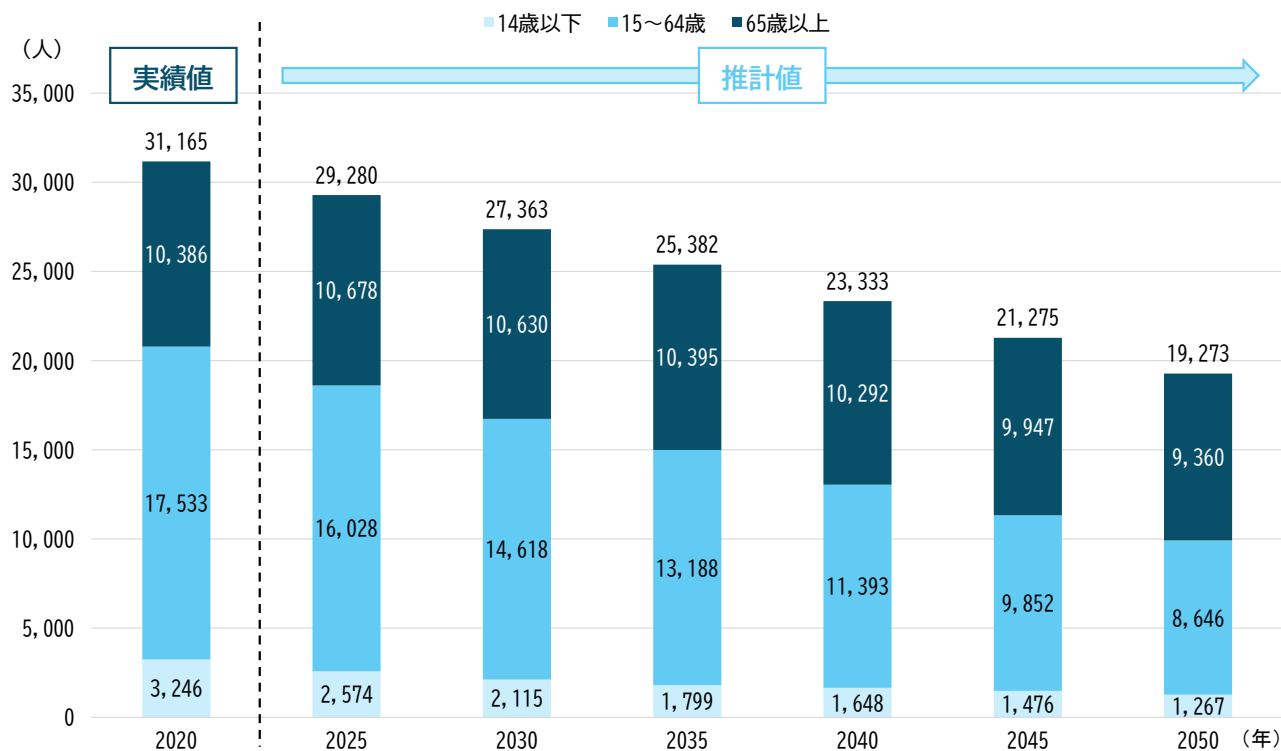


資料：矢板市統計書

(4) 将来推計人口

令和5年(2023年)に発表された国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計人口(以下「R5 社人研推計」)によると、矢板市の人口は今後減少傾向で推移していくことが見込まれ、令和32年(2050年)には総人口が19,273人となることが予測されています。

令和6年(2024年)には、人口戦略会議が公表した「地方自治体持続可能性分析レポート」において、新たに「消滅可能性自治体」に該当することとなり、地域の持続性に対する危機感が一層高まっています。



	令和2年 (2020年)	令和12年 (2030年)	令和22年 (2040年)	令和32年 (2050年)
R5 社人研推計値	31,165人	27,363人	23,333人	19,273人
年少人口 (14歳以下)	3,246人 (10.4%)	2,115人 (7.7%)	1,648人 (7.1%)	1,267人 (6.6%)
生産年齢人口 (15~64歳)	17,533人 (56.3%)	14,618人 (53.4%)	11,393人 (48.8%)	8,646人 (44.9%)
老年人口 (65歳以上)	10,386人 (33.3%)	10,630人 (38.8%)	10,292人 (44.1%)	9,360人 (48.6%)

※ 推計値は小数点以下第一位を四捨五入した値のため、年齢3区分人口の合計と総人口は、必ずしも一致しない。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年(2023年)推計」

2 まちの将来像

矢板市はいま、大きな転換点に立っています。加速化する人口減少や少子高齢化、地域経済の大きな構造変化に直面している一方で、豊かな自然環境、首都圏からのアクセスの良さ、先人たちが築いてくれた強固な社会インフラ、そして温かな地域のつながりなど、私たちには他にはない**活かすべき強み**があります。これらの貴重な本市の資源を最大限に活かし、私たちは「未来の矢板市」を築くための新しい一歩を踏み出します。

2024年には、矢板市が「**消滅可能性自治体**」として位置づけられ、**若年層の流出や女性人口の減少**といった深刻な課題が浮き彫りになっています。しかし、いま直面するこの困難こそが、私たちが目指す未来への扉を開くカギであると捉え、今こそ行政、市民、企業などがこの危機感を共有しあい、一丸となって「**変化**」を生み出し、生き残るための「**変革**」をスタートする必要があります。

私たちがこの10年で行うのは、**本市の持続可能性を高めるために必要な基盤を再整備**しながら、時代とともに**日々変化する市民の生活やニーズに即応できる体制構築**です。

その結果として、減少し続けている**出生数**を引き上げ、**社会増加**(転入超過)に転じさせつつ、市民の**幸福度**の向上を目指します。

将来に渡って市民の豊かな暮らしを支えるために必要な基盤の再構築においては、政策を「**稼ぐ力の強化**」、「**人財への投資**」、「**社会資本の再構築**」という3つの戦略領域に再編し、それぞれの領域別にビジョンを策定したうえで、普遍的で重要な施策を設定し、着実に実行します。

一方、市民の生活やニーズは、常に動的に変化し続ける社会に連動して、時代とともに日々変化します。そのため、長期に渡るすべての政策を固めたうえで臨むのではなく、定期的に幸福度や満足度などに影響する要因を分析し、総合戦略のPDCAサイクルに合わせて政策やバランスを調整することで、変化に即応できる体制を構築し、幸福度や満足度の向上を目指します。

「**選ばれるまち**」として、若者や子育て世代をはじめとする多様な人々が、矢板市で働き、暮らし、将来にわたって住み続けたいと思えるような安心で魅力ある環境を整えること。

「**繋がるまち**」として、地域内外の人・企業・資源が交わり、相乗効果を生み出し、地域の活力を高めていくこと。

「**新しい価値を創るまち**」として、地域の可能性を信じ、複雑化する社会課題や困りごとの解決に資する新しい価値を創り、子どもから高齢者まで誰もが希望を持って暮らせる持続可能で創造的なまちを築くこと。

これらの将来像の具現化を目指し、矢板市は一歩を踏み出します。



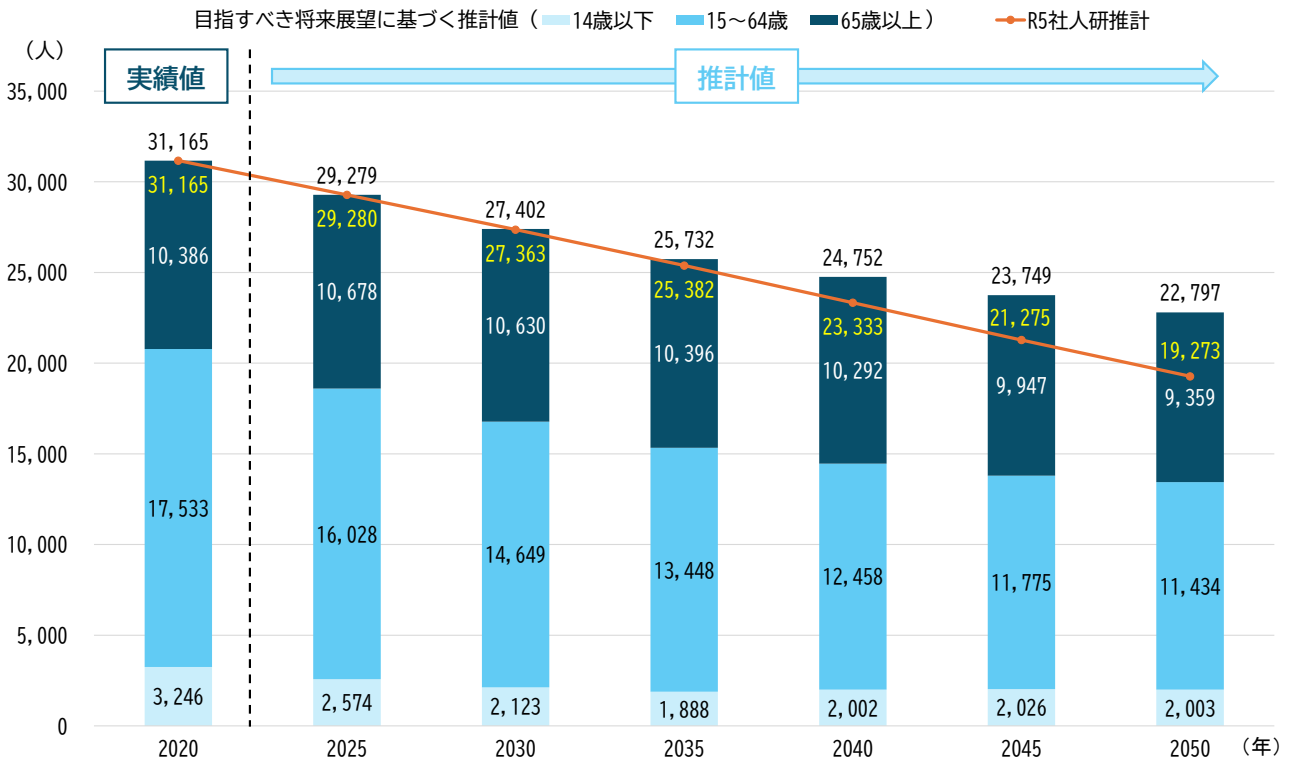
3 KGI（重要目標達成指標）

将来像の実現に向けて、本戦略全体の成果を測る中長期的な指標として、以下の3つのKGI（重要目標達成指標）を設定します。KGIは、矢板市が目指すべき将来展望を定量的に示すものであり、本戦略の方向性と施策の効果を客観的に評価するための基盤となります。

KGI

指標名	現状値	目標値		
		令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)
社会増減率	-0.13% (令和5年)	0.03%	0.22%	0.8%
出生数	119人 (令和5年)	—	—	118人
幸福度	未測定 (令和8年測定予定)	県平均・全国平均 以上	県平均・全国平均 以上	県平均・全国平均 以上

これらのKGIを達成した場合、令和17年（2035年）頃から人口減少のスピードは緩やかになり、その後は微減を継続する想定です。



※ 推計値は小数点以下第一位を四捨五入した値のため、年齢3区分人口の合計と総人口は、必ずしも一致しない。

4 3つの政策領域の設定

本戦略では、将来像の実現とKGIの達成に向けた施策を、「稼ぐ」「人財投資」「社会資本投資」の3つの政策領域に整理し、戦略的かつ体系的に展開します。

これらの領域は、矢板市が直面する人口減少や地域経済の縮小、暮らしの多様化といった複合的な課題に対し、相互に補完し合いながら持続可能な地域社会を構築するための基本的な枠組みとして設定するものです。

稼ぐ領域

領域ビジョン

誰一人取り残さない心優しい行政サービス、子育て等の
大胆な環境整備のための歳入の最大化

<本領域における課題>

矢板市においては、産業構造の変化や大手企業工場の操業終了などにより、雇用の減少や就職、転勤をきっかけとした若い世代の転入が減少しています。

人口減少や地域経済にとって影響力の大きい企業の操業終了は、雇用の減少のみならず、地域経済の縮小、税収の低下、更なる地域経済の縮小や人口の減少につながることから、これらの動きに歯止めをかける必要があります。

また、企業活動の縮小や人口減少に伴う税収の減少により、福祉や子育て支援などの分野における大胆な環境投資が困難となっていることから、状況を打開するには、新たな企業・投資を呼び込むとともに、地元産業の生産性向上を図り、産業集積と雇用の増加による地域経済の活力向上が重要です。

<本領域での取組の方向性>

雇用及び経済分野の改善を図り、市民一人ひとりがより満足な雇用と所得を得られるよう、成長産業や矢板市の特性に合わせた企業の誘致を進めるとともに、市内事業者の生産性向上を図り、市民・産業・行政が「稼ぐ」地域づくりを推進することにより、行政サービス、子育て等の大胆な環境整備を行うための歳入の最大化を目指します。

あわせて、このビジョンを実現するために必要となる制度活用や先駆的な取組に挑戦します。

人財投資領域

領域ビジョン

地域に根ざした人財の循環的な育成と活躍の場の創出と
年齢・性別・障がいの有無等に関わりなく安心して暮らせる
インクルーシブな社会の実現

<本領域における課題>

矢板市では、人口減少が大きな課題となっており、その中でも若い世代の転出が著しい状況にあります。さらに、若い世代の減少は、将来的なこどもの数の減少にもつながるため、地域の活力維持に当たった喫緊の課題となっています。

子育て世代などの若い世代に選ばれるまちとするためには、仕事と育児が両立できる環境の整備や子育ての負担の軽減、アンコンシャスバイアスの解消など、働きやすく子育てしやすい環境の整備に取り組むことが必要です。

また、年齢・性別・障がいの有無等に関わりなく安心して暮らせる社会とするためには、包摂的な社会の実現、地域コミュニティの活性化や多世代交流などを推進することが必要です。

<本領域での取組の方向性>

全ての世代が自分らしく活躍できるまちを目指し、切れ目ない子育て支援、柔軟な働き方・暮らし方の推進、そして社会を生きる力を育てる教育を推進します。人と人とのつながりを大切にし、心の豊かさを育むことで、市民の幸福度向上を図ります。

特に、若い世代の幸福度向上を目指す領域の横断的な取組として「子育てに、ヨコウを。プロジェクト」を立ち上げ、働きやすい環境整備、子育て・教育に関する不安感・負担感の軽減を図ります。

社会資本投資領域

領域ビジョン

まちの持続的な成長を支える社会基盤の強化
(人が住み、企業が活動する理由づくり)

<本領域における課題>

人口減少に伴い、住宅新築件数の減少に加えて、空き家率や空き店舗率の増加が続き、中心市街地の空洞化などの課題が深刻化しています。

また、インフラや公共施設においても、老朽化が進んでいます。

矢板市が多くの人に選ばれるためには、公共交通の利便性向上やデジタル化の推進、防災力の向上が必要です。

<本領域での取組の方向性>

安心・快適な暮らしを支える都市・生活インフラを整備し、交通・住宅・防災・デジタル化等の多様な観点から都市環境の質をさらに向上させることにより、住民や事業者双方が成長し活躍できる持続可能で未来志向の地域社会の構築を目指します。

5 本戦略での取組

本戦略では、矢板市が抱える課題の解決に向け特に注力する取組について掲載しており、それらの取組を「稼ぐ」「人財投資」「社会資本投資」の3つの政策領域に整理し、本戦略における将来像の実現とKGI達成に向け取組を進めていきます。

なお、本戦略に掲載されない取組についても、重要施策、総合戦略を支える公共経営の取組として重視しており、これらの取組は本戦略を補完する個別計画において推進します。

矢板市が抱える課題の解決に向け特に注力する取組	短期着手施策	稼ぐ <ul style="list-style-type: none"> ● 企業立地・産業集積に向けた戦略策定 ● ふるさと納税による地域経済の活性化 ● 企業版ふるさと納税による地域の活性化
	長期継続施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 「稼ぐ」農業の実現 ● 「滞在型観光」の促進 ● 市内企業に対する伴走支援モデルの構築 ● 創業・起業支援 ● 市内企業への事業承継支援 ● 企業との共創 ● シティプロモーションの推進
重要施策		<ul style="list-style-type: none"> ● 産学官金連携の強化 ● シティプロモーションの推進 ● 持続可能な商工業活動への支援 ● 企業立地・産業集積の促進 ● 働きやすい就労環境の整備 ● 立地を生かした観光振興 ● 観光資源の保全・活用 ● スポーツツーリズムの推進 ● 農林畜産業経営支援 ● 環境にやさしい農林業の確立 ● 農林業の生産基盤の確立 ● 農業農村の活性化 ● 森林の保全・整備推進
総合戦略を支える公共経営の取組		<ul style="list-style-type: none"> ■ 人的資本経営の実現 ■ 情報公開 ■ DXの推進

短期着手施策：

持続可能な地域社会の構築に向けて、KGIを達成するために早期に基盤を整えなければならない施策

長期継続施策：

持続可能な地域社会の構築に向けて、長期的かつ継続的に取り組むことで成果を生み出す施策

人財投資

- 妊娠期から出産・子育てまでの切れ目のない子育て支援
- 働きやすい就労環境の整備

- 結婚を実現しやすい環境の整備
- 多様なニーズに合った質の高い子育て支援サービス
- 人間力育成型教育の充実
- 活躍人財の循環的育成
- 生涯活躍の機会と場の創出
- 生活における多様なニーズへの支援

- 市民主体のまちづくりの推進
- 地域担い手の人材育成
- 地域福祉を推進する体制づくり
- 誰もが社会参加できる環境づくり
- 障がい者の地域生活の基盤づくり
- 地域で支える子育て環境づくり
- 安心して子育てできる生活環境の整備
- 母子保健の充実
- 支援を必要とする家庭への施策の充実
- 介護保険事業の充実
- 誰もが活躍できる地域社会の推進
- 高齢者の生きがいづくり等の支援の充実
- 小中学校教育の充実
- 幼児教育と学校教育の連携の充実
- 「子育てに、ヨコウを。プロジェクト」の推進
- 小中学生と高校生の連携
- 教育の充実のための環境づくり
- 学びの場づくりの充実
- 学びを生かすための環境づくりの整備・充実
- 地域学校協働活動事業の充実
- 文化・芸術の振興
- 文化財の保護・活用
- 生涯スポーツの推進
- スポーツ施設の機能拡充

社会資本投資

- 不動産流動性の向上
- 移住定住の促進
- 地域社会全体のデジタル化
- まちの環境性能向上

- 安心・快適な移動環境の実現
- 地域商業環境再生・活性化
- 災害への「備え」「学び」「住まう」をつなぐ防災機能強化
- 魅力的な立地条件を整える道路基盤整備の強化
- 暮らしを支え、都市環境の質を高める公共施設整備

- 環境にやさしい社会の構築
- 廃棄物処理の適正化
- 消防・防災体制の確立
- 災害に強いまちづくりの推進
- 気候変動適応の推進
- 市内公共交通の充実
- 広域幹線道路の充実
- 計画的な土地利用の推進
- 良好な市街地の形成
- 都市内幹線道路の整備
- 生活道路の整備
- 水道水の安定供給
- 公共下水道の整備

- 行財政改革
- 財政健全化
- 官民連携

- 民間活力の活用
- 市民協働
- 公共施設の適正配置

6 進捗管理手法

本戦略の実効性を確保するためには、施策の進行状況や成果を適切に把握し、必要に応じて柔軟に見直す仕組みを構築することが不可欠です。このため、各施策に設定したKPI（重要業績評価指標）およびアウトプット指標に基づき、定期的な進捗評価を実施します。

進捗評価では、数値の達成度のみならず、施策の実施状況や外部環境の変化を踏まえた総合的な分析を行い、本戦略の方向性や施策内容の妥当性を検証します。特に、社会情勢や地域課題が大きく変化する可能性がある中で、柔軟かつ実効性の高い戦略運営を行うためには、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルに加え、必要に応じて既存施策を抜本的に見直す「スクラップ&ビルド」の視点を取り入れることが重要です。

「スクラップ&ビルド」とは、既存の事業や制度を一度見直し、時代や地域の実情に合わなくなったものを廃止（スクラップ）し、新たな視点や手法に基づいて再構築（ビルド）する行政手法です。この手法を活用することで、従来の延長線上では対応しきれない課題にも果敢に挑戦し、本戦略の実効性と柔軟性を高めることを目指します。

矢板市総合戦略 概要版

令和8年3月

発 行 矢板市
〒329-2192 栃木県矢板市本町5番4号
T E L 0287-43-1112
E メール yaita@city.yaita.tochigi.jp
ホームページ <http://www.city.yaita.tochigi.jp>